

# 令和4年度 学校評価書

令和5年3月1日

福生市教育委員会 殿

福生市立福生第四小学校

校長 南方 孝之 印

## 1 今年度の学校の重点的な取り組み

- (1) 人とのかかわりを大切にして、思いやりのある児童を育てる学校づくり
  - ① 道徳の授業を系統的・計画的に実施し、自他を大切にする児童を育てる。
  - ② 人とのかかわりを通して好ましい人間関係を構築し、人権を意識した行動習慣の徹底を図る。
  - ③ 基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と社会に貢献しようとする精神の高揚に努める。
- (2) 学び合い、高め合う授業を通して、確かな学力を身に付ける学校づくり
  - ① 確かな学力の定着を目指し、基本的な事柄を繰り返し丁寧に指導する。
  - ② 主体的・対話的で深い学びの実現、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
  - ③ 家庭と連携し、毎日の家庭学習の習慣化を図る。
- (3) 自らを鍛え進んで健康な体づくりをする児童の育成を目指す学校づくり
  - ① 児童の体力の向上を目指し、持久走週間や縄跳び週間を再開する。
  - ② 走力や投げる力の向上を目指し、体育授業の改善を図る。
  - ③ 児童の危機回避能力の向上を目指し、安全教育プログラム等の活用を図る。
- (4) 地域と連携を図り、地域から学び、地域に誇りをもつ児童を育てる学校づくり
  - ① コロナで中断している体験活動を再開する。
  - ② 保護者や地域の人材を活用した新たな実践を開発する。
  - ③ 保護者・地域と連携した学校行事や地域行事を推進する。

## 2 自己評価の総括

- (1) 豊かな心の育成
  - ① 年3回のふれあい月間を活用して、「いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」に基づき、学級ごとに目標を決めていじめの撲滅に取り組んだ。
  - ② 自分の考えを表現することに重点を置いて問題解決的な授業改善を図り、自分の考えを表現できる児童の育成に取り組んだ。
  - ③ 出前授業やオンライン見学等、外部人材を活用して体験授業の充実を図った。

- ④ 手芸・工作クラブ、バトミントクラブでは、積極的に地域の人材を導入してクラブ活動の充実を図ったことで、児童が意欲的に取り組んでいた。
- ⑤ 道徳授業地区公開講座では講師を招いた講演会を実施し、児童の健全育成を図るための工夫について、学校・保護者・地域が共に学ぶ機会となった。
- ⑥ 児童会によるあいさつ運動では、自発的に運動に参加する児童も増え、気持ちの良いあいさつの声が校内に響いていた。
- ⑦ チャイム着席が習慣化するなど、「ふっさつ子生活スタンダード」を意識した指導により、学習規律の定着が見られた。

## (2) 確かな学力の向上

- ① 各種学力調査の結果を分析し、児童の実態を考慮したグループ編制を行うなど、算数における習熟度別少人数学習を全学年で実施した。
- ② 東京ベーシックドリルを活用し、わかりやすい授業を目指して授業改善を図った。
- ③ 自分の考えをもち、表現できる児童の育成を目指して、年3回の研究授業を中心とした校内研究による授業改善を図った。
- ④ 休み時間や放課後には個別指導を積極的に行い、学力の底上げを図った。
- ⑤ 夏季休業期間にサマースクールを4日間実施し、基礎的な事柄の習熟を図った。
- ⑥ ICTを効果的に活用した授業改善を進め、児童の学習意欲の向上がみられた。
- ⑦ タブレットを活用したドリル学習が習慣化し、家庭学習でも取り組む児童が増えた。

## (3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 持久走週間・縄跳び週間では全児童が参加し、体力向上を目指すきっかけとなった。
- ② 休み時間を利用して鬼遊びやボール運動など、月1回のペースで運動に親しむ場を設けた。
- ③ 体力測定の結果分析では、全学年通じて持久力と瞬発力に課題が見られた。
- ④ 体育の授業でタブレットを取り入れるなど、ICTを活用した授業改善に取り組んだ。
- ⑤ 地域安全マップ作り、不審者対応訓練、避難訓練などを通じて、児童の危機回避能力の向上を図った。

## (4) 特色ある学校づくり

- ① 季節ごとの自然観察や稲作体験等、自然体験活動を積極的に行った。
- ② 茶道体験や古典楽器演奏など、日本の伝統・文化理解教育を推進した。
- ③ 横田西小学校や留学生との国際交流会活動は、感染予防のため実施できなかった。
- ④ 1年生からの英語活動やALTとのふれ合い活動など、国際理解教育を推進した。
- ⑤ スイミングスクールを活用した着衣水泳やサマースクールにおける高校生の補習支援等、CS委員のコーディネイトによる新たな取組みにも挑戦した。
- ⑥ 学校ブログやCS通信、学年・学級便り等で、教育活動の広報活動を積極的に行った。

### 3 自己評価に対する改善策

#### (1) 豊かな心の育成

- ① あいさつ運動については模範となる高学年の育成もねらいの一つとし、引き続き児童委員会を中心として児童主体で行っていく。また、教員の意識高揚も目指し、参加を促す。
- ② いじめ・不登校対策では、校内委員会を中心に情報共有を図り、SCやSSW・教育相談室等と連携しながら、新たないじめや不登校の未然防止に向けた取組みを継続して行う。
- ③ 福生四小ファンクラブを活用し、地域の方と連携して体験学習等の充実を図っていく。

#### (2) 確かな学力の向上

- ① 学力向上委員会を中心に各種学力調査の結果を分析し、児童の実態にあった学力向上策を提案・推進する。また、児童一人一人の課題に向き合った支援方法について分析・検討し、実践していく。
- ② 休み時間や放課後等、個に応じた指導を積極的に行い、確かな学力の底上げを図る。
- ③ 毎日の家庭学習の習慣化を目指すとともに、家庭学習におけるタブレット活用や読書週間の定着も目指していく。
- ④ 家庭学習を計画的に毎日行い、欠席時のオンライン授業やドリルを活用した「学びの日常化」を進める。
- ⑤ 授業のスタンダード化を進め、児童に問題解決型の学び方を身に付けさせることで、自力解決する能力を身に付けさせる。
- ⑥ ふっさっ子スタンダード等を活用し、児童の学習モラル向上の指導を継続していく。

#### (3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 児童が体を動かす機会をできるだけ多く設定し、縄跳び・持久走などのカードを活用した意欲向上も図っていく。
- ② 体力測定等の結果を分析し、児童の実態にあった授業改善や体験学習の導入を図る。
- ③ 専門家を招いた体育授業を行うなど、知識・技能の向上につながる運動の方法を学び、体力の向上を図っていく。

#### (3) 特色ある学校づくり

- ① 福生四小ファンクラブを活用して、地域人材を講師として招聘し、地域の伝統文化の体験活動や防災教育を実践していく。
- ② 地域と共に創り上げた活動を、今後も持続可能な活動となるように指導計画に位置付けるなど、カリキュラムマネジメントを推進する。
- ③ 横田基地内の学校との交流を再開し、国際理解教育を推進する。
- ④ 児童の健全育成を目指したPTA行事や地域行事には、児童や教員の積極的な参加を促していく。

## 4 学校関係者評価の総括

### (1) 豊かな心の育成

- ① 「四小の児童は楽しく学校生活を送っている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が92%、CS委員が100%と、大変高い割合であった。
- ② 「四小の児童はあいさが良くできている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が80%、CS委員が75%と少し低かった。あいさつ運動をはじめとする取組みをさらに工夫・改善し、自らすすんで気持ちの良いあいさができる児童を育てていきたい。
- ③ 「人とのかかわりを大切にして、思いやりのある児童を育てる学校である」という項目では、保護者の肯定的評価が92%と、比較的高い割合を占めている。小規模校ならではの異年齢交流をさらに推進し、誰にでも優しく接することができる児童を育てていきたい。

### (2) 確かな学力の向上

- ① 「四小の児童は学習に意欲をもって取り組んでいる」という項目では、保護者の肯定的評価が84%、CS委員が100%と割合が高い。また、「先生は授業をわかりやすく教えている」という項目では、保護者の肯定的評価が94%、CS委員が100%と同じく高い割合を示している。今後も授業力向上に努めていきたい。
- ② 「毎日の家庭学習が身に付いている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が72%と大変厳しい。今後も家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を目指し、方策を工夫していく。

### (3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① 「持久走・縄跳び週間や食育の授業等を通じて、健康維持や体力向上に取り組んでいる」という項目で保護者の肯定的評価が94%、「早寝・早起き・朝ご飯・歯みがきの習慣が身に付いている」では92%と、ともに高い割合になっている。児童の健全育成に対する、各ご家庭の意識の高さが感じられる。

### (4) 特色ある学校づくり

- ① 「花火大会・土曜クローバー等のコミュニティ・スクール委員会の取組みが、良い学校づくりに寄与している」という項目では、保護者の肯定的評価が94%と、高い割合である。PTAやCS委員会の取組みが、児童の豊かな学校生活の実現につながっていることがわかる。
- ② 「学校が地域と連携を図れていて、郷土と地域文化を愛する児童が育っている」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が70%、分からないが18%あり、日本や地域の伝統文化に触れる体験活動の充実が課題といえる。
- ③ 「学校公開や様々な行事等を通して、児童の様子を知ることができる」という項目では、保護者の肯定的評価の割合が98%、「学校と保護者・地域との連携・協力がとれている」

では94%と割合が高く、学校・保護者・地域が信頼関係と協力関係で結ばれていることが実感できた。

## 5 学校関係者評価に対する改善策

### (1) 豊かな心の育成

- ① 2学級ある学年は、新年度から毎年クラス替えを行う。固定しがちな人間関係をリセットすることにより、新たな人間関係を構築させる。
- ② 単学級の学年には、副担任制度を導入する。また、担任も毎年変わることを原則とする。様々な大人とかかわることにより、協調性やコミュニケーション能力の育成につなげる
- ③ 「ハッピータイム（縦割り班活動）」や体力テスト・諸行事等では、異学年交流を活発に取り入れ、相手を思いやる優しい心を培う機会とする。
- ④ あいさつや基本的な生活習慣については、児童に必ず身に付けさせたいと考え、次年度も指導の重点として継続して取り組んでいく。児童会活動の一貫としても取り組むことで、児童に意識させていく。また、教員の意識を高め、児童を指導していく。

### (2) 確かな学力の向上

- ① 校内研究では話し合い活動に着目し、自分の考えを深めるための話し合い活動を目指し、手立てを工夫してきた。今後は、課題を的確に読み解き、自分の考えをもって、適切に表現できる児童の姿を目指し、授業改善に取り組んでいきたい。また、ICTを効果的に活用しながら、あらゆる教科で問題解決学習を推進する。
- ② 学習習慣の定着に課題を抱える低学年児童のために、平日の放課後に補習教室を開設する
- ③ サマースクール（夏季補習）では、高校生ボランティアによる指導の充実を図る。
- ④ 家庭学習では基礎的な事柄の習熟とともに、自主学習ノート等、児童自身が選択した課題にも低学年の段階から取り組ませ、自主的な学習態度の育成を図る。

### (3) 健やかな体の育成・体力の向上

- ① ゲストティーチャーとして専門家やアスリート等を招聘し、運動能力の向上を図る。
- ② 運動週間として全校で取り組む持久走・縄跳びを、1学級1取組みに位置付け、カード等を活用しながら年間通して取り組み、体力の向上につなげる。
- ③ 運動の日常化のため、ゲームを取り入れたもの（アルティメット等）に取り組む。
- ④ 安全教育を総合的な学習の時間に位置付け計画的に実施するとともに、安全教育プログラムを活用して、児童の危機回避能力の向上を図る。

### (4) 特色ある学校づくり

- ① 福生市の英語教育推進事業を活用し、1年生からの英語活動の授業の充実を図る。
- ② 福生四小ファンクラブを活用して、地域の方に協力していただき地域の伝統文化の体験活

動を継続していく。

- ③ コミュニティ・スクールを活用して、福生四小ファンクラブ（学校地域支援組織）の活性化を図り、体験を中心とした教育活動の充実を図る。

## 6 総括的な学校評価

### （1）豊かな心の育成

- ① 「いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」に基づき、クラスごとにふれあい月間の目標を決め、年間を通じて取り組むことができた。登校時など、校外での児童のあいさつに課題があり、児童会などであいさつ運動を行ってきた。今後も、方法を工夫して継続する。
- ② いじめ未解決0件、不登校児童0名を目指し、次年度も、福生市教育相談室等と連携を図り、毎週開催する校内支援委員会を中心に特別な支援を必要とする児童への対応を充実させていく。

### （2）確かな学力の向上

- ① 文科省学力学習状況調査の結果では、各教科で全国の平均を超えることができなかった。次年度も、基礎学力の定着を図るとともに、児童が主体的に取り組む問題解決型の授業研究を実施し、授業改善を図っていく。
- ② 学習規律の確立を目指して、ふっさっ子スタンダード等を活用した指導を継続していく。
- ③ 家庭学習では、基礎的な事柄の習熟とともに、自主学习ノート等、児童自身が選択した課題にも低学年の段階から取り組ませ、自主的な学習態度の育成を図る。
- ④ 英語教育の推進を図るとともに、放課後学習教室や補習を充実させていく。

### （3）健やかな体の育成・体力の向上

- ① 運動能力調査では、瞬発力と持久力に課題が見られた。次年度も引き続き、児童の体力の向上を目指して授業改善に取り組んでいく。また、休み時間に運動の場を設定するなど、運動に親しむ機会を増やし、体力向上につなげていく。
- ② 安全教育を総合的な学習の時間に位置付け、計画的・系統的に学習することにより、児童の危機回避能力の向上を図る。

### （4）特色ある学校づくり

- ① 本校の恵まれた環境を生かし、環境教育や国際理解教育、日本の伝統・文化理解教育を推進し、児童の豊かな学びの実現と健全育成を図っていく。
- ② コミュニティ・スクールとして、福生四小ファンクラブ（学校支援地域組織）を活用し、体験活動等を中心とした教育活動の充実を図っていく。
- ③ 学校・家庭・地域が連携した学校づくりを目指して、コミュニティ・スクールを核とした学校運営の充実を図っていく。